

2024年6月期第3四半期決算説明資料



上場市場 : 東証プライム 札証
証券コード : 9450

 **2024年6月期3Q決算実績 _P4**

 **2024年6月期通期決算見通し _P15**

 **トピックス _P22**

 **Appendix _P29**

2024/6期3Q実績

全社動向

3Q累計
経常増益率
+**10.3%**

全社動向

3Q
EBITDAマージン
32.4%

ホームユース事業

3Qクロスセル
フロー売上比率
10.6%

ビジネスユース事業

3Q累計
営業増益率
+**54.3%**

2024/6期通期見通し

全社動向

想定経常利益
+10.0%
据置き

全社動向

想定ROIC
17.5%

全社動向

配当想定
年17.5円に引上げ
7.5円増配

ビジネスユース事業

下期想定
営業利益率
25.8%



Fibergate Inc.

株式会社ファイバーゲート

2024年6月期3Q決算実績

- 2024/6期3Qは前年比16%増収10%経常増益。経常利益率は1pp低下も、およそ20%と高水準を保持
- セグメント別にはようやくビジネスユース事業が伸長。不動産案件の前倒し計上もあり、この2事業で増益分のほとんどを稼ぎ出した計算。主力のホームユース事業は堅調ながら、増益への貢献度は限定的に

(百万円) 百万円未満切り捨て 0.1%未満四捨五入	2023/6期 3Q実績	2024/6期3Q累計			2024/6期通期	
		実績	前年差異	前年比	見通し	進捗率
売上高	8,228	9,537	+1,309	+15.9%	13,710	69.6%
ホームユース	7,134	7,816	+682	+9.6%	11,020	70.9%
ビジネスユース	1,062	1,174	+112	+10.6%	1,860	63.1%
不動産/再生エネルギー/他	32	547	+514	16.8倍	830	65.9%
営業利益	1,737	1,882	+145	+8.3%	2,530	74.4%
ホームユース	2,286	2,299	+13	+0.6%	3,290	69.9%
ビジネスユース	206	318	+111	+54.3%	460	69.2%
不動産/再生エネルギー/他	▲7	74	+81	黒字回復	80	92.7%
調整	▲748	▲809	▲61	赤字拡大	▲1,300	62.3%
経常利益	1,719	1,896	+177	+10.3%	2,520	75.2%
経常利益率	20.9%	19.9%	▲1.0pp	-	18.4%	-
親会社当期純利益	1,176	1,256	+80	+6.9%	1,680	74.8%

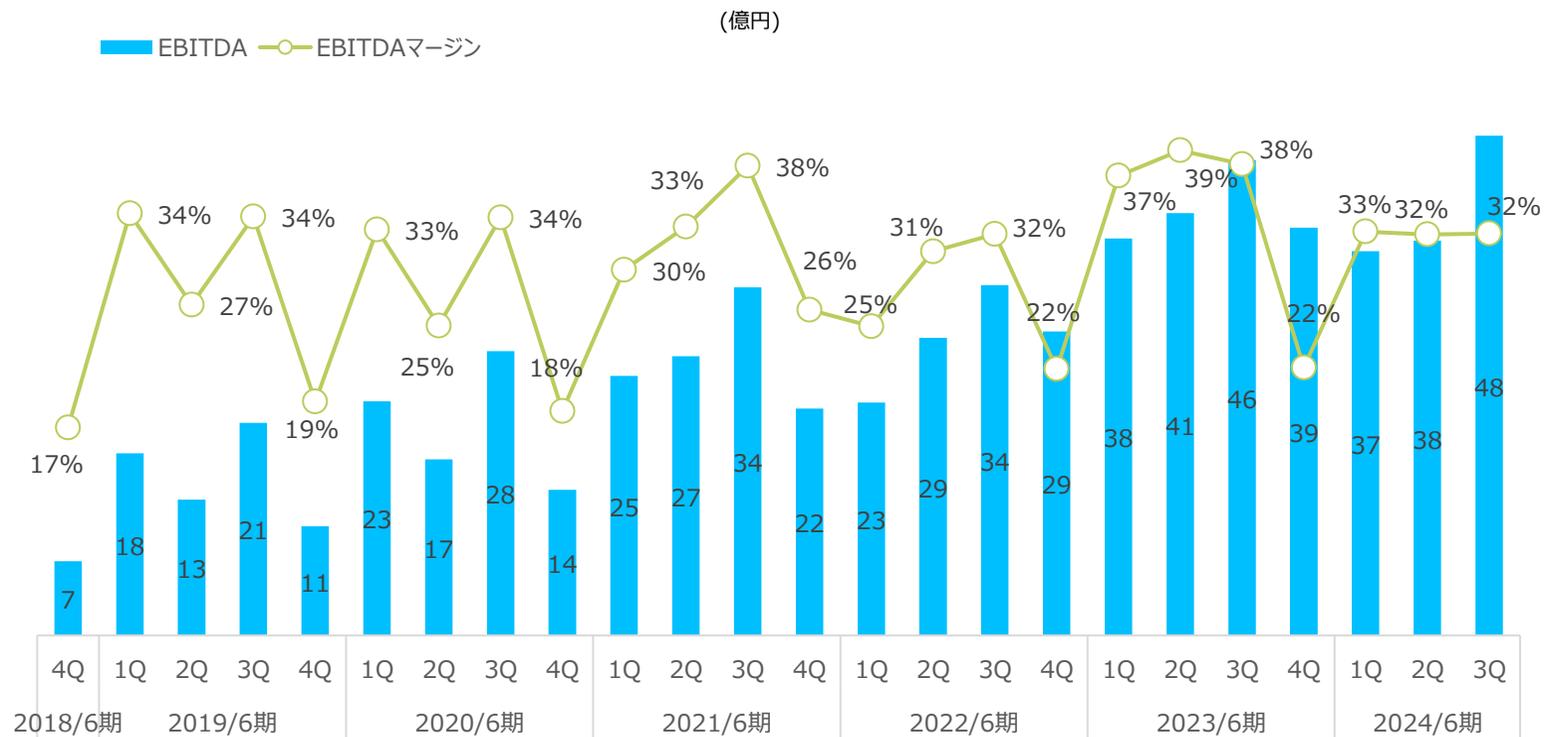
- 発生ベースでも、売上・利益とも3Qの過去最高を更新。対前年比では、営業利益でビジネスユースと不動産が伸長。特に、注力中のビジネスユースはリードタイムの長さがネックとなっていたが、ようやく加速感が発現
- 一方、ホームユースは前年比で増収減益。ストックビジネス積上効果は継続したものの、フロー売上が一時的に苦戦。それに伴って利益率が一旦低下

(百万円)	2023/6期				2024/6期			2Q/3Q 比較	前年 比較
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
売上高	2,591	2,612	3,024	4,567	2,852	2,953	3,731	+777	+706
ホームユース	2,256	2,245	2,632	2,466	2,521	2,565	2,729	+164	+96
ビジネスユース	329	350	381	450	327	356	490	+134	+108
不動産/再生エネルギー/他	5	16	10	1,650	4	31	511	+479	+500
営業利益	480	511	745	582	525	573	783	+210	+38
ホームユース	671	717	897	683	714	767	817	+50	▲79
ビジネスユース	46	70	89	83	56	98	163	+64	+73
不動産/再生エネルギー/他	▲8	4	▲2	145	▲4	14	63	+48	+66
調整	▲229	▲280	▲238	▲329	▲241	▲307	▲260	+46	▲22
経常利益	480	500	737	571	548	569	778	+209	+40
経常利益率	18.5%	19.2%	24.4%	12.5%	19.2%	19.3%	20.9%	+1.6pp	▲3.5pp
親会社当期純利益	337	338	499	306	370	361	524	+163	+25

*百万円未満切り捨て、0.1%未満四捨五入

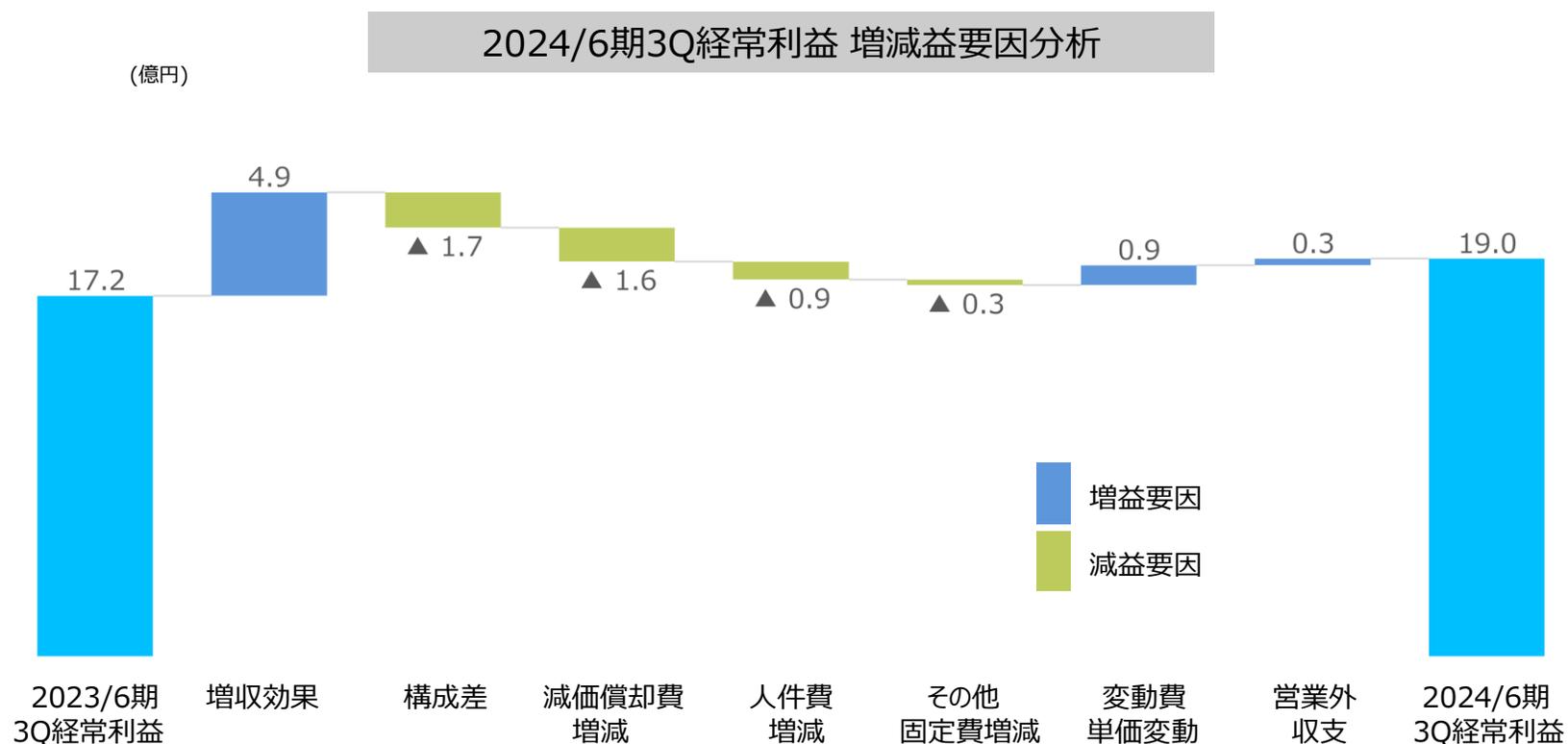
- 3QのEBITDAは12ヶ月換算ベースで48億円まで拡大。EBITDAマージンは32%
- キャッシュ創出力は上場以来ほぼ一貫して30%前後で推移。EBITDAの拡大傾向に変化なし

EBITDA推移（12ヶ月換算ベース）

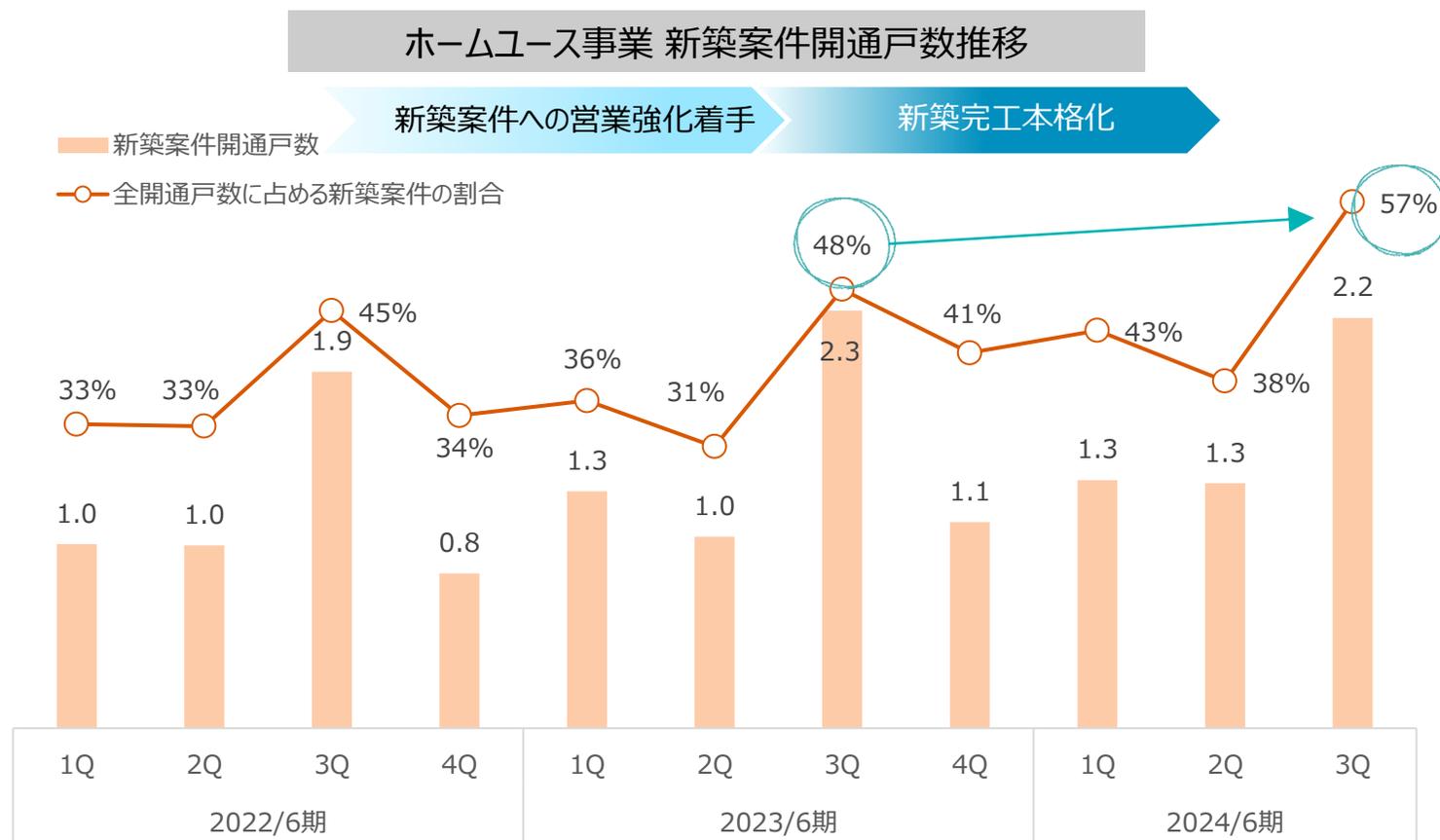


注) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 と定義

- 前年3Q累計との比較では増収効果が経常増益を牽引。特に3Qのビジネスユース・不動産の躍進が貢献
- コスト面では、回線使用料が、時限的な契約変更によって変動費単価変動に貢献し、損益を下支え。固定費関連では、引続き抑制気味ながら、人件費や償却費の増加が継続



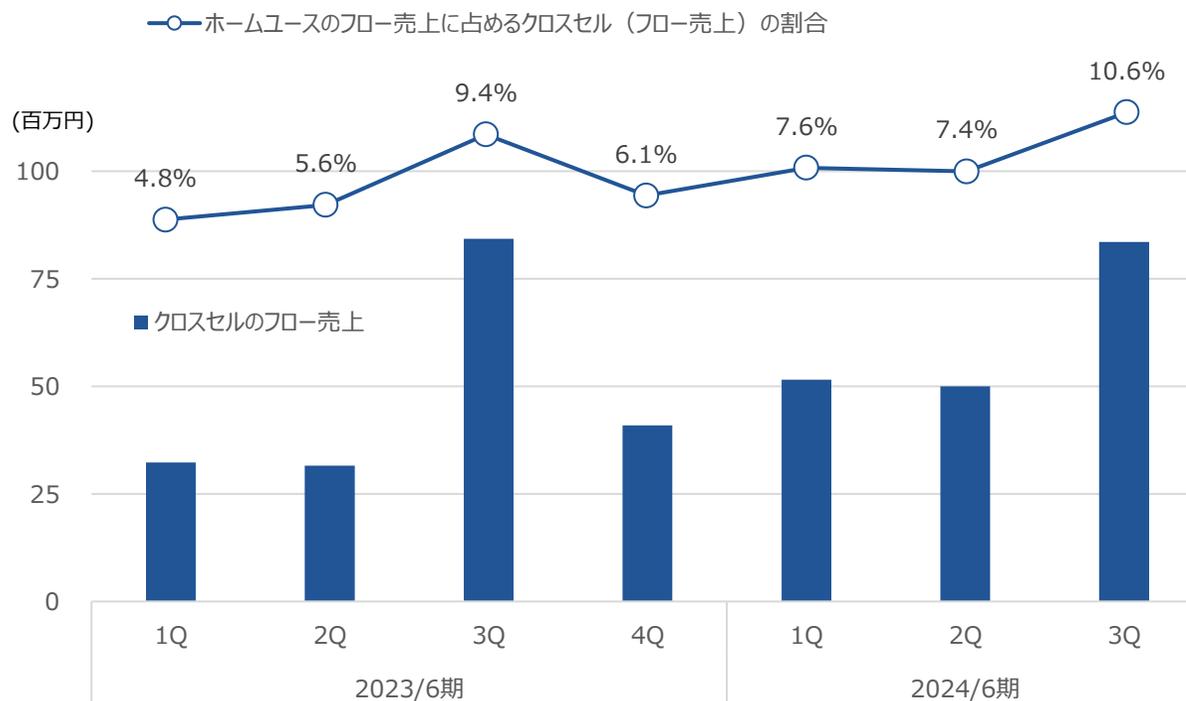
- 3Q四半期発生ベースのホームユース事業新築案件開通戸数はほぼ前年並みの水準。実需動向に変化なし
- 全開通戸数に占める新築案件の割合は57%に到達。3Qという新築完工が集中する季節要因は割り引いて考える必要あるが、新築案件の重要性は急速に上昇



*2022/6期1Qの新築開通戸数を1とした場合の指数表示

- 2023/6期より本格注力を始めたクロスセルは、事業の先行指標となるフロー売上（導入時点で計上）が3Q発生ベースでおよそ0.8億円まで増加。総売上規模（フロー/ストックの合計売上）も1億円超/四半期に
- 3Qの売上増は新築案件の完工増といった季節要因も大きく貢献。季節要因を除くベースでは慎重な見方を継続するも、ホームユース・フロー売上に占めるクロスセルの売上割合が10%に到達したことは一つの節目と認識

クロスセルのフロー売上推移



宅配BOX設置サービス

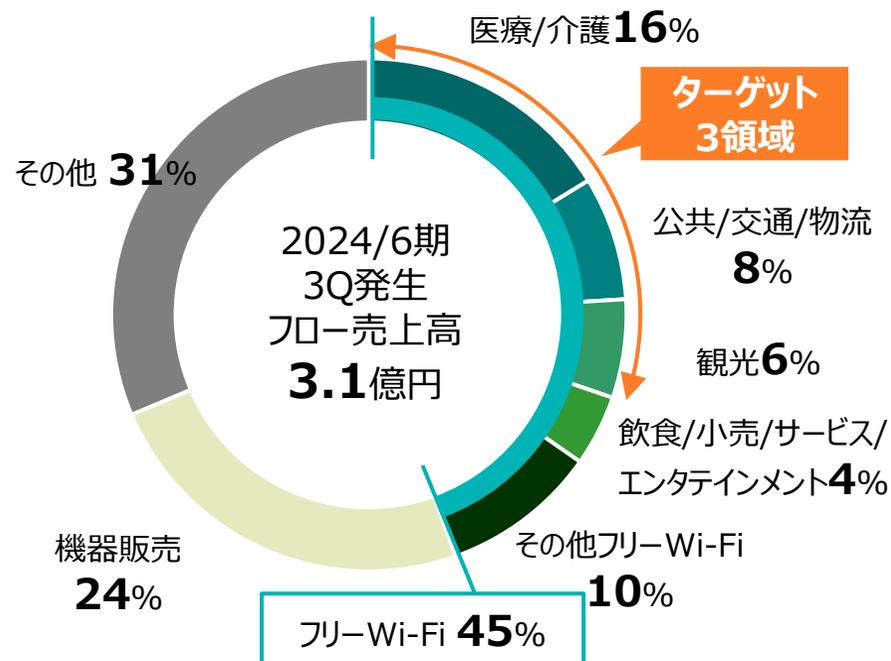


- ビジネスユース事業の3Q営業利益率は33%に急伸。2Q時点で改善の兆しが見えていたが、想定以上の改善を実現。大規模案件や高付加価値サービスの提供機会獲得など、受注内容の改善が進捗
- 主たる顧客は以前に設定したターゲット3領域。およそ1.5年を要し、これら領域への注力が奏功を開始。更なる成長への仕掛けは営業パートナーの拡充。既に直近1年で3割増を積上げ、受注件数増加加速に繋げる

ビジネスユース事業 営業利益率の推移

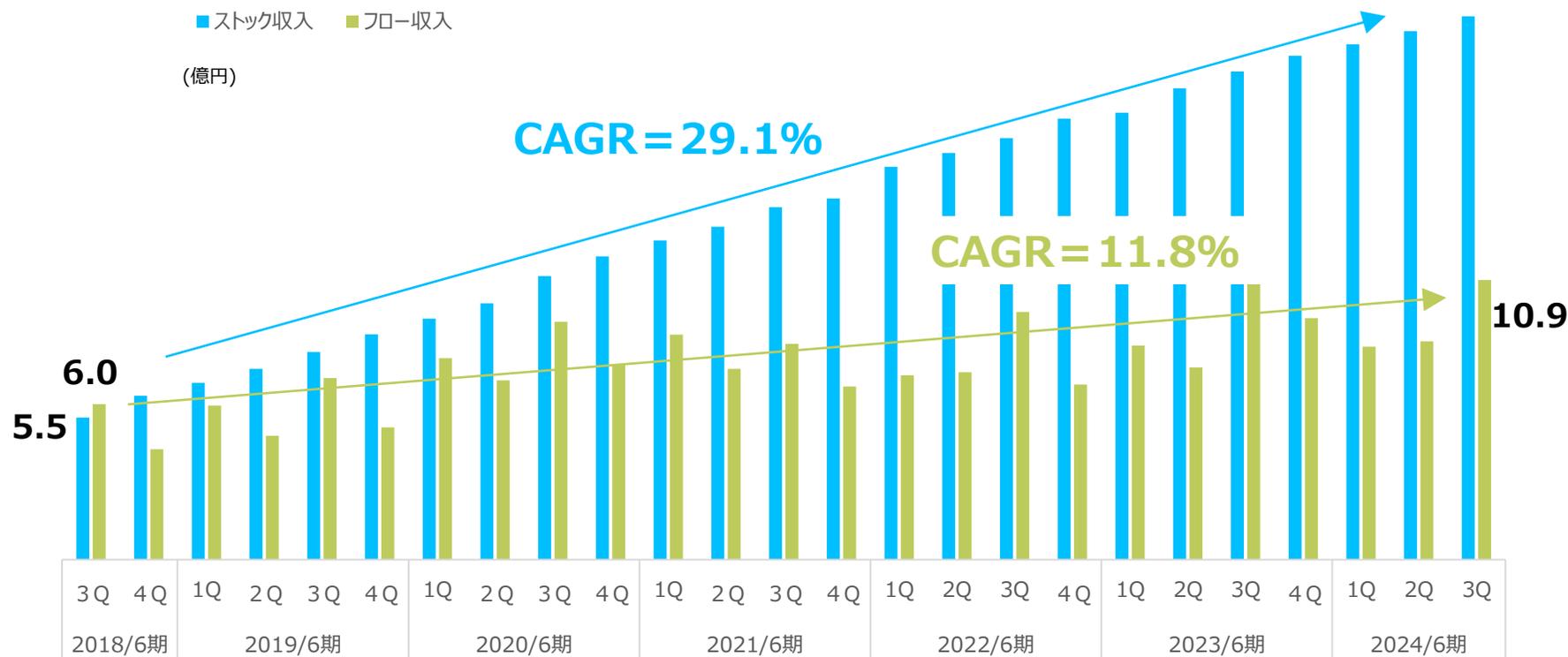


ビジネスユース事業 3Q発生売上の顧客属性内訳



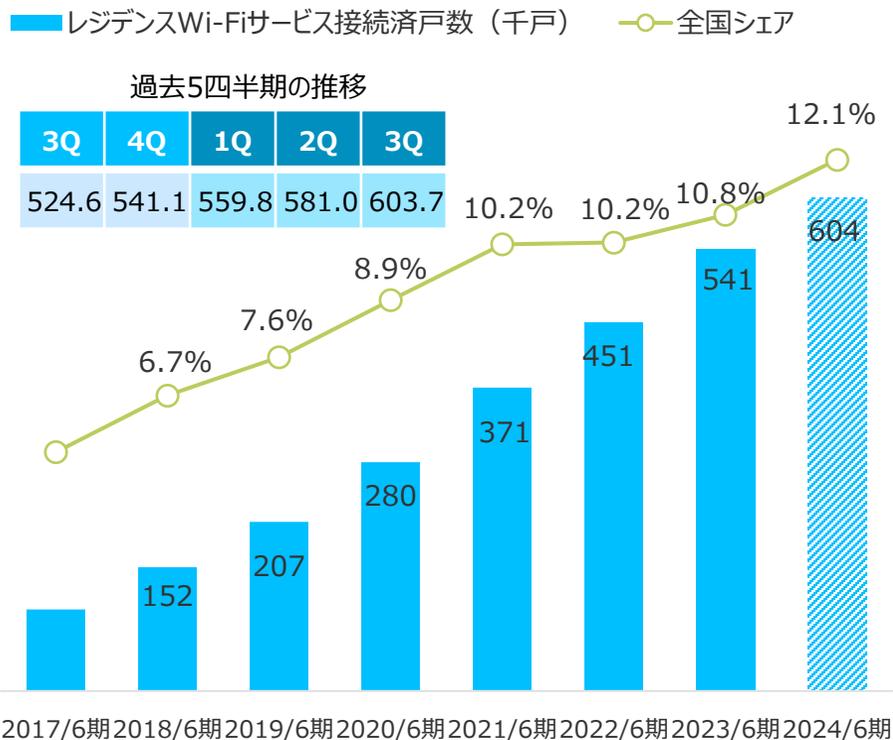
- ストック収入は順調に積上げ。上場来24四半期連続で増加し、3Q発生ベースでは21億円に到達。ただし、規模拡大に伴う成長率の減衰は否めず、年平均成長率は遂に29%に低下
- 一方、フロー収入は一進一退の傾向。およそ7~11億円/四半期のレンジ内での推移が継続

ストック収入・フロー収入（除く不動産）の四半期推移



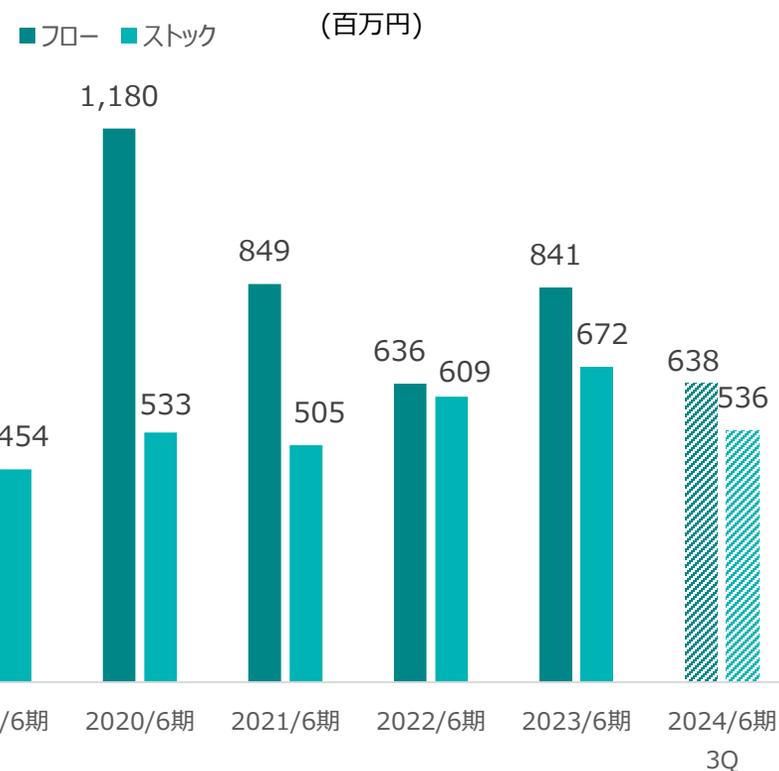
- レジデンスWi-Fiサービスの3Q末接続済戸数は60万戸。接続済戸数の増加ピッチは2万戸/四半期と堅調
- ビジネスユースにおいて先行指標となるフロービジネス売上は、3Qに急伸。足の長い案件が売上に結び付いてきたと認識。これまでの営業努力がようやく結実してきた公算大

レジデンスWi-Fiサービス接続済戸数と全国シェア*の推移



*全国シェアはMM総研発表による全戸一括型マンションISPの提供戸数総数（各3月末現在）を当社会計年度末（もしくは直近四半期末）の契約戸数実績で除して算出

フロー/ストック別ビジネスユース売上高推移



連結決算概要(貸借対照表)

- 自己資本比率は42.0%。財務の健全化は進み、今後はレバレッジを維持する方向を検討する水準に
- 3Qは通常の通信事業拡大に伴う固定資産増に加え、機器関連在庫の前倒し調達を実施。その分はキャッシュの圧縮などで対応

(百万円)	2022/6期	2023/6期	2024/6期 3Q	2023/6期 比増減
流動資産	6,028	5,559	5,228	▲331
現預金	2,303	2,382	1,833	▲549
売掛金	1,375	1,585	1,837	+251
棚卸資産（通信）	654	637	914	+277
棚卸資産（不動産）	1,426	655	352	▲303
固定資産	7,057	7,203	7,820	+617
有形固定資産	6,204	6,565	7,231	+666
総資産	13,087	12,764	13,049	+285
負債	9,808	8,005	7,498	▲507
有利子負債	6,653	4,672	4,689	+17
契約負債	1,958	1,638	1,411	▲227
純資産	3,279	4,758	5,551	+792
負債純資産合計	13,087	12,764	13,049	+285

在庫増・固定資産取得
などにキャッシュを充当

機器関連在庫の
前倒し調達

一部案件の売却を実施

Wi-Fi契約増に伴う
通信事業関連資産増

借入金は横ばい

自己資本比率42.0%

*百万円未満切り捨て、0.1%未満四捨五入



Fibergate Inc.

株式会社ファイバーゲート

2024年6月期通期決算見通し

2024/6期連結決算見通し① 総括表

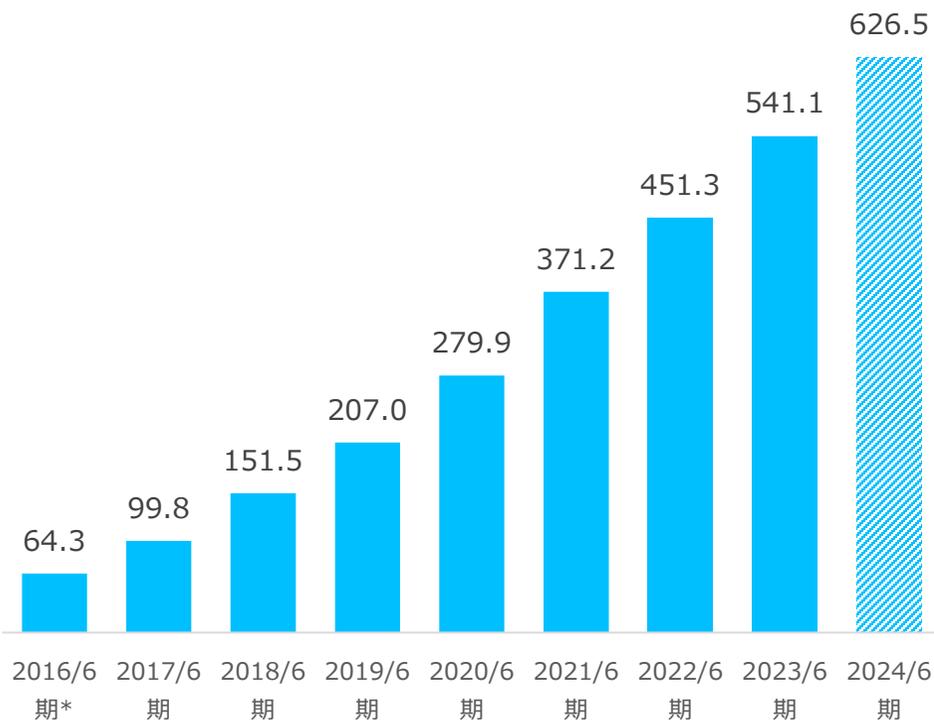
- 2024/6期通期では7%増収10%経常増益の想定を据置き。4Q発生ベースでは、対前年比で減収増益を想定することになる。減収は不動産売却案件の減少が影響。増益は通信関連の堅調を見込む
- セグメント別には、4Qでビジネスユースの更なる伸長を想定。下期の想定利益率は26%と、これまでの営業活動の成果刈り取りを急ぐ。「すべての施設にWi-Fiを」実現に向けての手応えを確認するフェーズに

(百万円。百万円未満切り捨て)	2023/6期	4Q実績	2024/6期見通し		通期前年比較		
			3Q実績	4Q見通し	増減額	増減率	
売上高	12,795	4,567	13,710	3,731	4,172	+914	+7.1%
ホームユース	9,600	2,466	11,020	2,729	3,203	+1,419	+14.8%
ビジネスユース	1,512	450	1,860	490	685	+347	+23.0%
不動産/再生エネルギー/他	1,682	1,650	830	511	282	▲852	▲50.7%
営業利益	2,320	582	2,530	783	647	+209	+9.0%
ホームユース	2,970	683	3,290	817	990	+319	+10.8%
ビジネスユース	289	83	460	163	141	+170	+58.7%
不動産/再生エネルギー/他	138	145	80	63	5	▲58	▲42.2%
調整	▲1,078	▲329	▲1,300	▲260	▲490	▲221	▲20.6%
経常利益	2,290	571	2,520	778	623	+229	+10.0%
経常利益率	17.9%	12.5%	18.4%	20.9%	15.0%	+0.5pp	-
当期純利益	1,482	306	1,680	524	423	+197	+13.3%

- レジデンスWi-Fi新規接続戸数前提は9.2万戸超増の累計戸数62.6万戸。新規契約の一時的伸び悩みも緩和に向かうと想定し、従来前提を継続
- ビジネスユースでも従来前提を据置き。これまでの先行的な営業努力の果実獲得を意識した対応を進める方針。引続き、病院や介護施設、観光施設といった注力領域の営業に注力

レジデンスWi-Fiサービス接続済戸数

(単位：千戸)

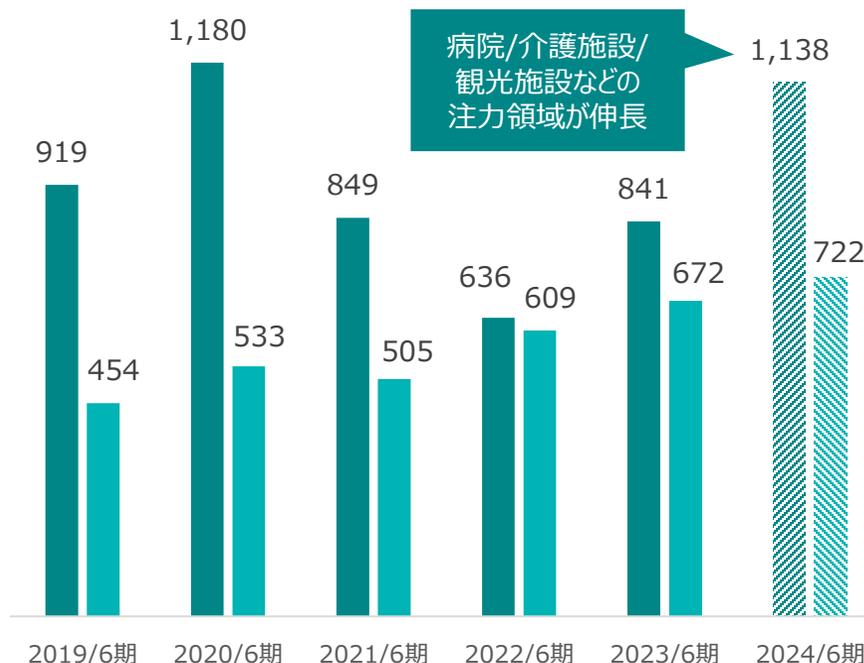


* 2016/6期は6ヵ月決算

フロー/ストック別ビジネスユース売上高推移

(百万円)

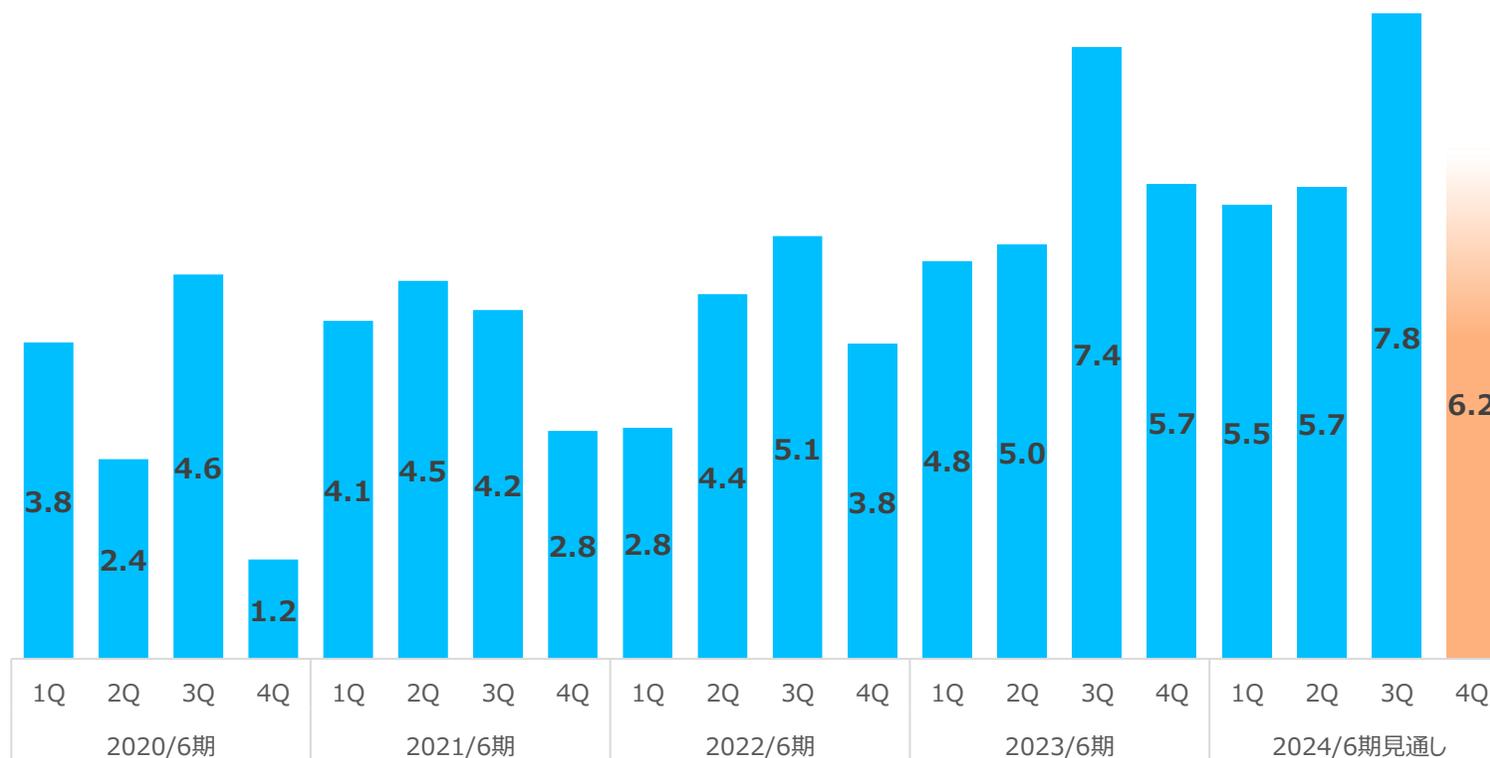
■ フロー ■ ストック



- 四半期別の経常利益では、4Qは例年通り、対3Qでは減少となるも、前年比では増加を維持する見通し
- なお、従来は4Qに不動産事業の売上が集中との前提にあったが、3Qに一部を前倒し計上。その結果、3Qの利益水準は若干想定上振れとなり、逆に4Qの利益はやや従来想定から下振れる見通しに修正

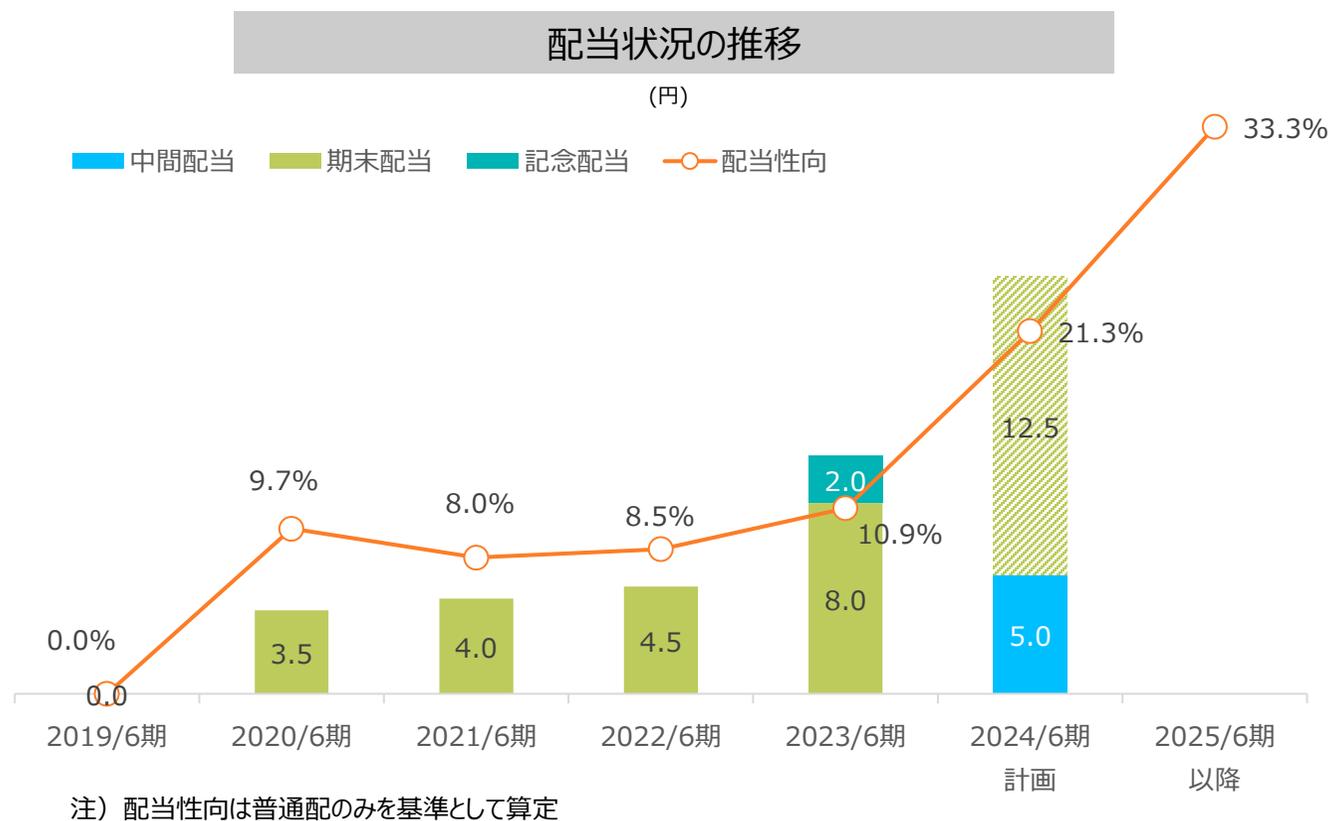
四半期別経常利益の推移イメージ

(億円)



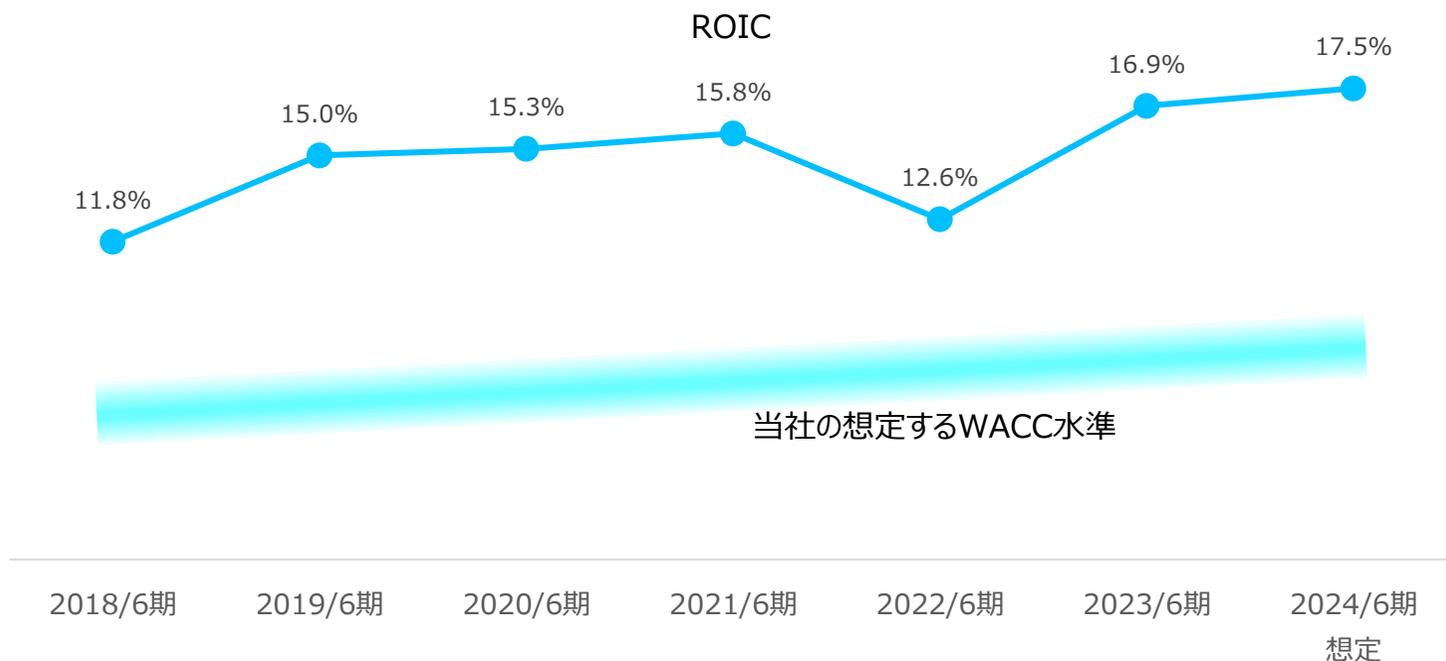
配当方針（2024年3月13日発表）

- 2024/6期の配当計画を従来の年10円から年17.5円に引上げ。期末配のみでは、従来計画の5円配を12.5円配に修正
- 併せて、2025/6期以降の配当性向を33.3%と設定。健全かつ持続可能な利益配分として、成長と株主還元、財務強化の三方良しを図る方針

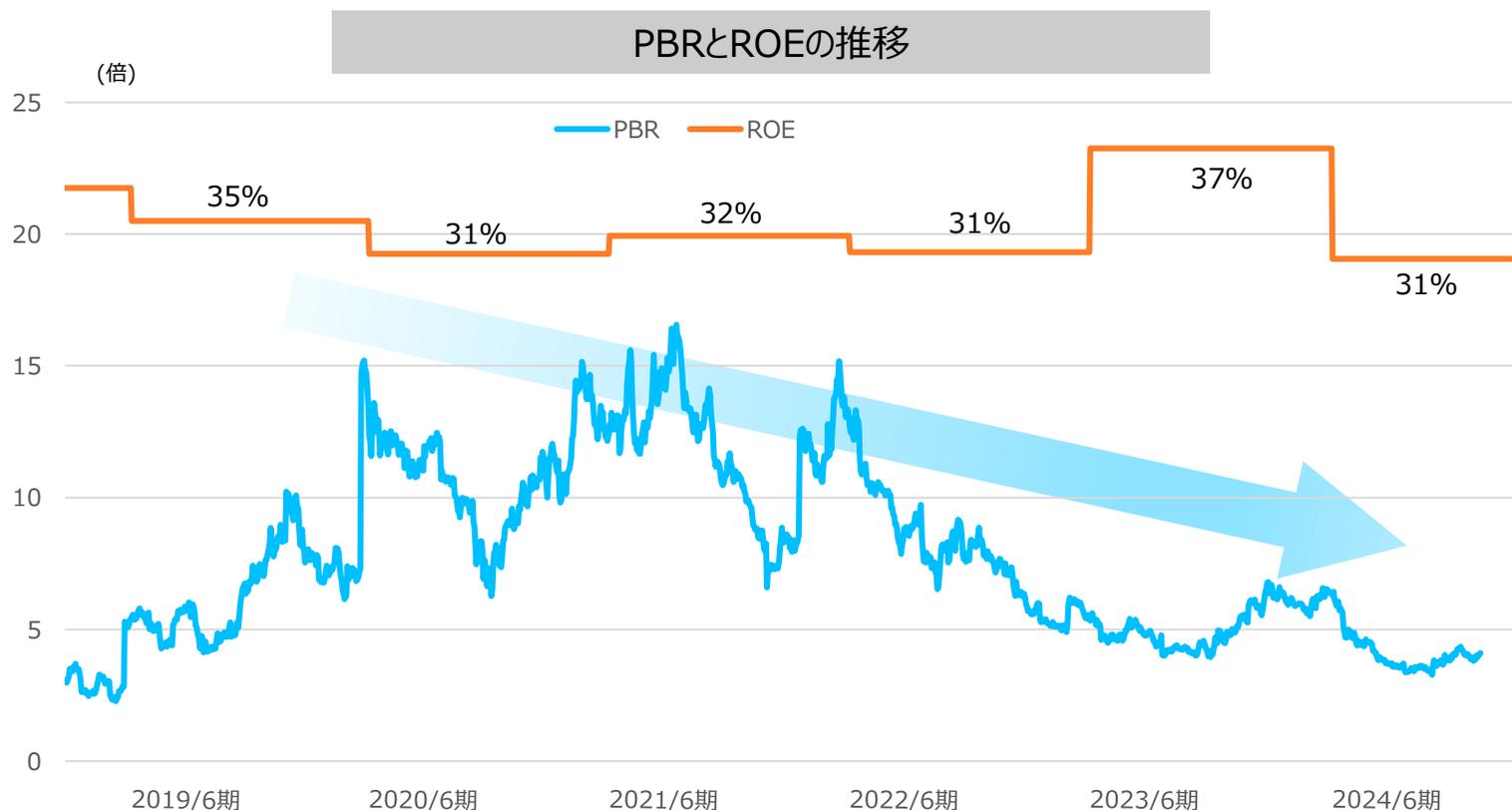


- 当社のROICは2018/6期以降、順調に改善。2024/6期は17%超を想定
- WACCとの比較においても、上場来これまで、ROICは一度もWACCを割り込んだことはないと分析。資本コストを上回るリターンを安定的に計上

ROICとWACCの推移



- ROEも基本的に30%超の非常に高い水準を継続
- しかし、PBRは傾向的に低下。PBR1倍以上の水準は確保しているものの、高いROE継続に対して市場の評価はむしろ低下傾向にある。ROE維持は当然として、今後は市場からの信頼獲得に向けてIRを強化





Fibergate Inc.

株式会社ファイバーゲート

トピックス

1 地域最大級の移動型クラフトフェアWi-Fi協賛 **ビジネスユース**

2 ラピダス千歳ムービングハウスにWi-Fi提供 **ビジネスユース**

3 東神楽町と通信/環境連携協定締結 **ビジネスユース** **再生エネルギー**

4 フェイスネットワーク社 再エネシステム導入 **ホームユース** **再生エネルギー**

5 個人投資家向けIR説明会実施 **その他**



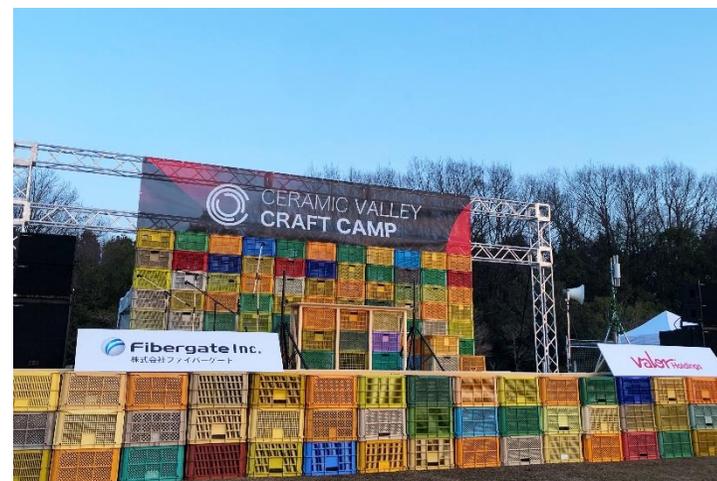
「CERAMIC VALLEY CRAFT CAMP VOL,3 -KANI-」 屋外イベントWi-Fi協賛

■ 概要

地域最大級の移動型クラフトフェア「CERAMIC VALLEY CRAFT CAMP VOL,3 -KANI-」において、衛星通信を用いたイベントWi-Fiを構築
 昨年に引き続き、2年連続の協賛

■ 導入ポイント

- ・特設会場全域にWi-Fi構築
- ・約4ヘクタールの敷地内全域の通信環境をカバー
 →Wi-Fi6対応屋外用アクセスポイントを会場内3カ所に設置
 →小型衛星を使用した衛星通信も使用
- ・イベント前日に当社工事部門にて施工
- ・廃棄を出さないよう、可能な限り環境に配慮した施工内容



■ 「CERAMIC VALLEY CRAFT CAMP VOL,3 -KANI-」

名称：CERAMIC VALLEY CRAFT CAMP VOL,3 - KANI - (セラミックバレークラフトキャンプ可児)
 主催：セラミックバレー協議会/CCC 実行委委員会 後援：多治見市・瑞浪市・土岐市・可児市
 日時：2024年3月16日(土)・17日(日)
 開催場所：岐阜県可児市 トイファクトリーの丘 特設会場
 イベントURL：https://ccc-mino.com/



■ リリース詳細はこちら→[地域最大級の移動型クラフトフェア「CERAMIC VALLEY CRAFT CAMP VOL,3 -KANI-」屋外イベントWi-Fi協賛のお知らせ](https://ccc-mino.com/)



半導体工場建設作業員向け宿舎をWi-Fi化

■ 概要

株式会社アーキビジョン21が企画する
 ラピダス千歳工場の建設作業員用宿舎「ムービングハウス」のWi-Fi化
工場建設に従事する作業員へより快適な居住環境を提供

■ 当社提供内容

- ・ネットワーク設計
- ・機器設定および機器手配
- ・光回線およびプロバイダサービス手配
- ・機器設置後の遠隔疎通試験
- ・Wi-Fi施工レクチャー（ノウハウの提供）
- ・導入後の保守・サポート

ホームユース、ビジネスユース両方を手掛けてきた当社ならではの機材とノウハウを提供



■ 株式会社アーキビジョン21

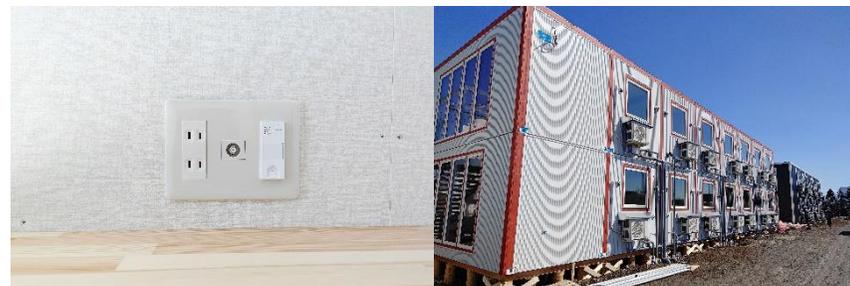
代表者：代表取締役 丹野 正則

所在地：〒066-0051 北海道千歳市泉沢1007-168

設立：1985年3月

事業内容：

工場生産方式による木造建築物の設計・製造・販売(施工)、
 代理店による販売、宅地建物取引



■ リリース詳細はこちら→[ラピダス千歳建設作業員用ムービングハウスにWi-Fiを提供～日本の半導体産業を支えるインフラ整備～](#)

ファイバーゲートグループ、東神楽町と連携協定を締結 ～官民協働でDX化と再エネを活用したゼロカーボンの取り組みを推進～



■ 連携協定内容

1. ファイバーゲートと東神楽町

官民協働でDX化を促進し、国内外観光客の利便性向上及び地域住民等の情報通信サービスの向上を推進。公衆無線LANサービスの提供と職員向け業務用Wi-Fiサービスの提供を目指す

2. オフグリッドラボと東神楽町

東神楽町地域GX推進室の下にゼロカーボン推進研究会を設置。CO₂削減に資するための研究について連携

<調印式日程>

日時：2024年5月7日 15時00分～

場所：東神楽町複合施設はなのわ 2階会議室

出席者：東神楽町長 山本 進

ファイバーゲート、オフグリッドラボ

代表取締役社長 猪又 将哲



■ リリース詳細はこちら→[ファイバーゲートグループ、東神楽町と連携協定を締結](#)



不動産投資支援事業を展開するフェイスネットワーク、 当社グループの再生可能エネルギーシステムを導入

■ 概要

・フェイスネットワークが開発する投資用新築一棟マンションへの、当社グループ提供の再生可能エネルギーシステム導入に合意

■ フェイスネットワーク社の狙い

・フェイスネットワーク開発物件のZEH-M（Net Zero Energy House Mansion）化推進

■ 採用の経緯

- ・当社がフェイスネットワークに「FNネット」（入居者無料Wi-Fiサービス）を提供し、取引開始
- ・当社グループの再生可能エネルギー事業とフェイスネットワークのZEH-M物件開発への親和性を認識
- ・当社グループ再生可能エネルギーシステムのスペックがフェイスネットワークの要求水準充足を確認
- ・導入によるZEH-M化推進により、入居者の安心・安全、快適な暮らしに加え、地球環境に配慮した持続可能な社会の実現に貢献

■ 株式会社フェイスネットワーク

代表者 : 代表取締役社長 蜂谷 二郎
所在地 : 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-2-1
設立 : 2001年10月
事業内容 : 不動産業／建設業／一級建築士事務所

■ リリース詳細はこちら→[不動産投資支援事業を展開するフェイスネットワーク、ファイバゲートグループの再生可能エネルギーシステムを導入](#)

2024年3月13日（水）個人投資家向けIR説明会をオンライン配信で実施

<イベント概要>

- ・イベント名：
株式会社ファイバークート IR説明会
- ・日時：2024年3月13日（水）20:00～
- ・登壇者：代表取締役社長 猪又 将哲
- ・対象：個人投資家
- ・特徴：オンライン配信中にコメント欄の質問に回答するQ&Aが主軸

動画：[個人投資家向けIR説明会YouTubeリンク](#)

【今後の予定】

2024年5月28日（火）個人投資家向けオンライン会社説明会実施予定

※詳細はHP（<https://www.fibergate.co.jp/news/>）にて随時お知らせします。



書き起こし記事→[note～個人投資家向けIR説明会Q&A～Part1](#)

書き起こし記事→[note～個人投資家向けIR説明会Q&A～Part2](#)

書き起こし記事→[note～個人投資家向けIR説明会Q&A～Part3](#)



Fibergate Inc.

株式会社ファイバーゲート

Appendix



**独立系Wi-Fiソリューション企業*を起点に、
通信×再生可能エネルギー
を総合的に展開する未来インフラカンパニー**

***独立系Wi-Fiソリューション企業**

通信機器の開発からサービスまで一貫して提供する独立系公衆無線LAN 事業者。
現在、公衆無線LAN(Wi-Fi)アクセスサービス分野で、総務省管轄業者かつ提供区域が全国
の業者は14社であり、当社は大手キャリアと肩を並べる存在

通信事業：Wi-Fi通信システム



Wi-Fi, Anywhere



Fibergate Inc.

株式会社ファイバゲート



不動産事業：
Wi-Fi、IoT、再エネ設備のマン
ション開発とそのシリーズ化

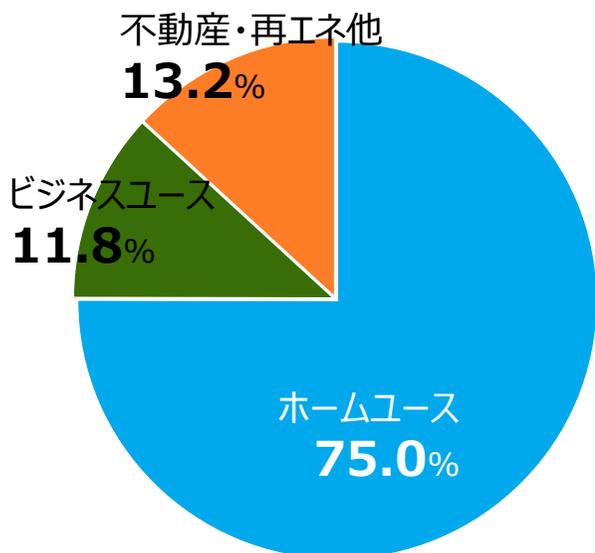


再生可能エネルギー事業：
自家発電自家消費型システム

- 2つの通信関連事業と再生可能エネルギー事業、不動産事業の計4事業を展開。主力はホームユースで、直近期の売上構成は75.0%
- 高採算の「顧客PB化支援」（当社は黒子として貢献）に注力

売上構成内訳

2023/6期実績



<主力の通信事業>

ホーム ユース事業



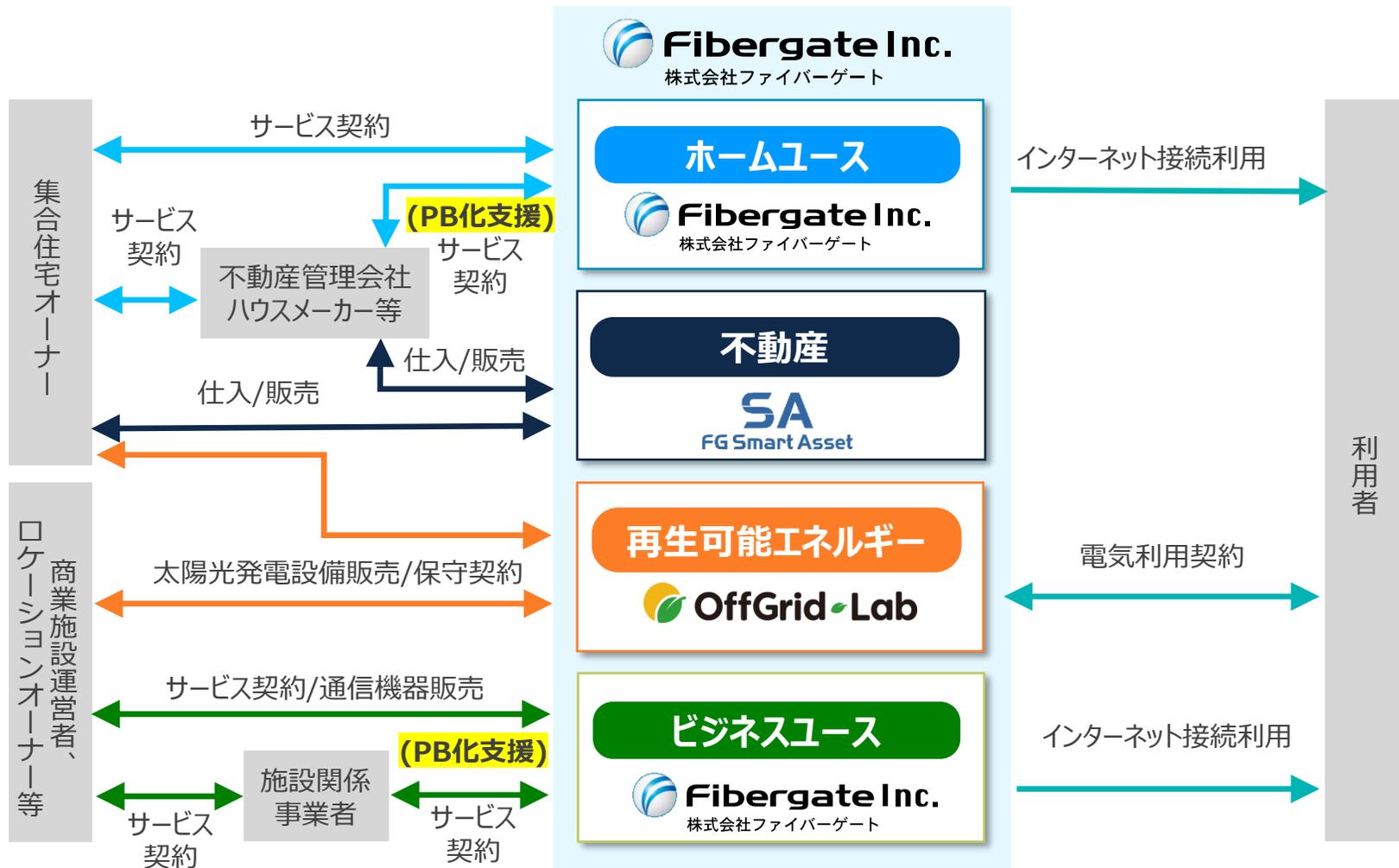
- ・マンション・アパート向け全戸一括インターネット接続サービスの提供
- ・顧客は集合住宅オーナー



ビジネス ユース事業

- ・フリーWi-Fi事業(観光地、商業施設向け)
- ・法人ネットワーク事業
(インターネットプロバイダサービスなど)
- ・Wi-Fiプロダクト事業
(通信機器の製造販売)
- ・顧客は観光自治体、商業施設などのロケーションオーナー

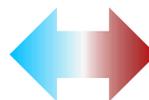
- 通信事業（ホームユース、ビジネスユース）、不動産、再生可能エネルギーの4サービスを展開。金銭報酬はサービス契約先より受領。インターネット接続利用者の金銭負担はなし
- 通信事業では「顧客のPB化支援」が主力



- 通信事業基盤と、再生可能エネルギー事業との相乗作用で高付加価値インフラの創出を実現

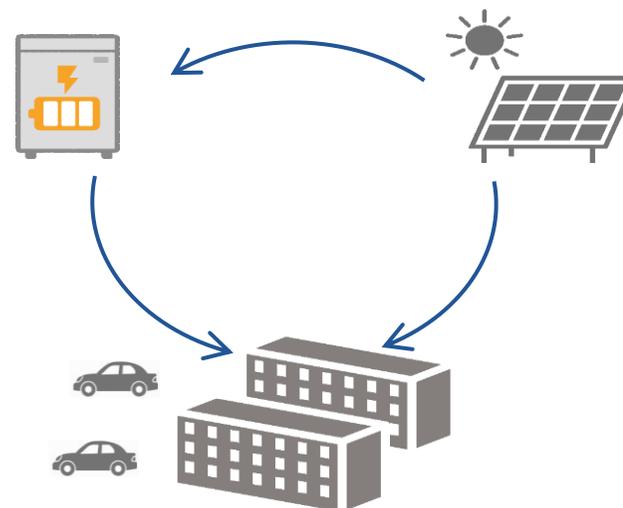
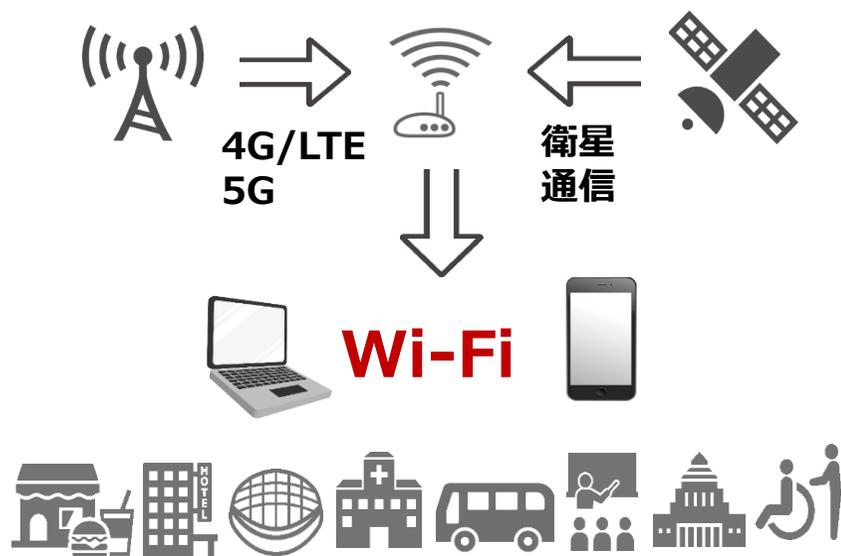
Step1

“すべての施設にWi-Fiを”
Alternative Carrier 構想の実現へ



Step2

通信・再エネが作る
未来インフラの実現



年	内容
2000	➤ 国内、国際電話サービスの加入取次を目的に仙台市若林区に会社設立
2003	➤ 札幌市中央区に本社移転 ➤ 複数拠点企業のネットワーク構築、Webでのブロードバンド回線販売を主業とする
2004	➤ レジデンスWi-Fi事業を開始
2005	➤ Wi-Fiによるブロードバンド化サービスを開始
2006	➤ PB化支援による集合住宅向けインターネット無料サービスを開始
2009	➤ フリーWi-Fiサービス事業を開始
2013	➤ コンピュータウェアの企画開発及びインターネット回線取次を担当する子会社NOISを設立
2014	➤ 当社開発通信機器の販売事業（Wi-Fiプロダクト事業）を開始 ➤ PB化支援による店舗・商業施設向けWi-Fiサービスを開始
2015	➤ 電気通信工事業認可（北海道知事許可）を取得 ➤ 台湾に100%子会社・飛博網通技股份有限公司を設立 ➤ 電気通信事業法に基づく電気通信事業の登録免許を取得
2018	➤ 東京証券取引所マザーズ市場に上場
2019	➤ 東京証券取引所第一部（現：プライム市場）に上場市場変更 ➤ 札幌証券取引所に上場
2020	➤ プロダクト開発子会社FG-Lab設立
2021	➤ 不動産関連事業を行う子会社FGスマートアセットを設立 ➤ 再生可能エネルギー事業を行う子会社オフグリッドラボを設立
2022	➤ 不動産売買・保有を行うTMアセットの株式を取得
2023	➤ 再生可能エネルギー事業の営業を開始

決算年月		2018/6期	2019/6期	2020/6期	2021/6期	2022/6期	2023/6期
売上高	(百万円)	3,977	5,446	7,424	8,491	10,624	12,795
経常利益	(百万円)	510	886	1,215	1,543	1,604	2,290
当期純利益	(百万円)	312	550	722	1,019	1,073	1,482
資本金	(百万円)	401	426	479	488	494	494
発行済株式総数	(千株)	4,761	9,807	20	20,487	20,591	20,591
純資産額	(百万円)	1,380	1,981	2,710	3,677	3,279	4,758
総資産額	(百万円)	4,364	5,311	6,984	9,397	13,087	12,764
1株当たり純資産額	(円)	144.92	202.06	133.52	180.40	160.74	230.12
1株当たり当期純利益金額	(円)	81.62	57.60	36.19	50.11	52.60	72.70
自己資本比率	(%)	31.62	37.30	38.80	39.13	25.06	36.80
自己資本利益率	(%)	34.82	32.77	30.81	31.92	30.86	37.19
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	808	1,345	1,732	1,710	2,295	4,296
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	▲1,328	▲1,389	▲2,071	▲2,256	▲2,626	▲2,189
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	868	▲15	699	1,326	436	▲2,027
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	1,118	1,058	1,415	2,196	2,303	2,382
従業員数	(人)	141	159	180	221	231	232

Wi-Fi, Anywhere 「すべての施設にWi-Fiを」 ～Alternative Carrierの実現に向けて～

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
経営企画本部 IR担当
0120-772-322
fgir@fibergate.co.jp